

大学生の職業価値観の形成に及ぼす要因について

～性格と心理的自立との関連～

国際文化研究科 国際文化専攻
臨床心理学研究分野 博士前期課程
2024年3月修了

河崎日向子

主査 稲田尚史 副査 樋渡孝徳 中富尚宏

研究背景

大学生を対象とした職業価値観に関する研究は、性役割態度(森永, 1993), 就業動機(安達, 1998)など様々な変数との関連について検討されているが、大学生は心理的自立を模索する時期であるためキャリア探索や職業観について研究する上で心理的自立との関連についても検討する必要があると考える。渡辺(2021)は、職業価値観とキャリア探索を取り上げ、心理的自立との関連について検討し、心理的に自立した状態にあるほど、自分の長所を活かせる職業を志向する傾向にあることを明らかにした。

研究目的

性格特性は内的準拠枠であると考えられることから、職業価値観と心理的自立に影響のある変数として検討していくことも必要であると考え。本研究では、青年期から成人期への移行期間にある大学生の職業価値観と心理的自立の関連について、性格特性という変数に着目して、検討していくことを目的とした。また、性格特性と心理的自立が関連し、心理的自立の程度が職業価値観に影響を及ぼすという仮説を設定した。

研究概要

〈方法〉

2023年4月～6月にA大学で心理学と教職課程の講義時間を利用して調査を実施した。

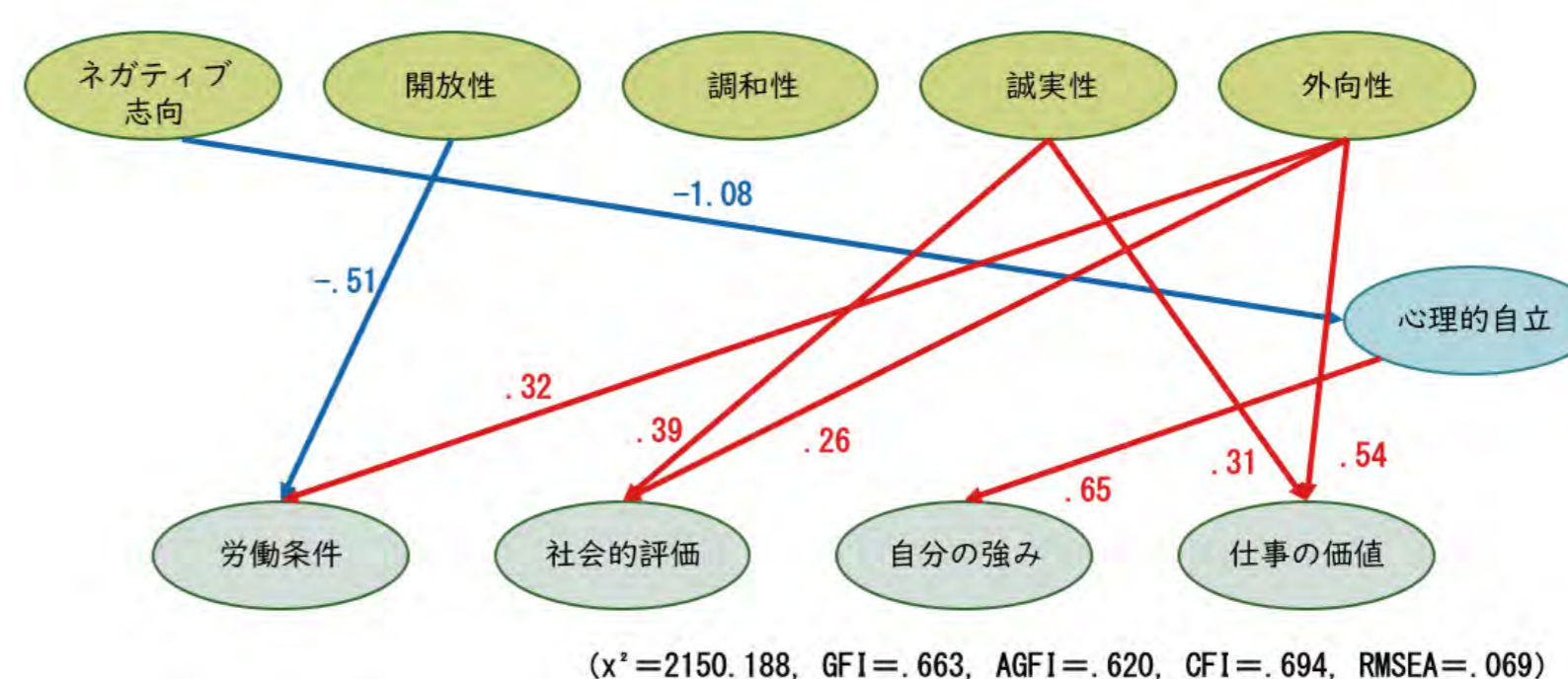
調査対象として、A大学に在籍する学生にアンケートの協力を求めた。その結果、大学1年生63名、大学2年生40名、大学3年生20名、大学4年生21名、修士2年生1名、合計145名(女子95名、男子50名)の協力が得られた。

アンケートでは、①職業価値観尺度42項目(菰田, 2006)②心理的自立を測定する質問項目38項目(山田, 2011)③Big Five尺度短縮版29項目(並川他, 2012)の3つの尺度を使用した。

〈結果〉

仮説を検討するための共分散構造分析では、性格特性が心理的自立を媒介して職業価値観に影響するという仮説は成立せず、性格特性と心理的自立の関連は「ネガティブ志向」のみが心理的自立を介して、自分の強みと関連することのみが示されるに留まった。

共分散構造分析によるモデル検討



成果・まとめ

「ネガティブ志向」が心理的自立に負の影響を及ぼしていることが示唆された。また、心理的自立が「自分の強み」に正の影響を及ぼしていることが示唆された。「外向性」が「仕事の価値」に正の影響を及ぼしていることが示唆され、「開放性」が「労働条件」に負の影響を及ぼしていることが示唆された。重回帰分析を用いた分析では、説明率が低かったため、今後、職業価値観へのその他の影響についても検討していく必要がある。また、サンプルの男女の偏りや学部の偏りをできる限り無くし、サンプル数を増やして検討していく必要があると考える。



指導教員コメント

研究結果から、性格特性と職業価値観との関連が強く、心理的自立は職業価値観の一部に対してのみ影響することが示され、仮説は十分に証明されなかったが、一定の成果を認めることができる。本研究は、性格特性を職業価値観と心理的自立の双方に影響する要因として考え、三者の関係性を統合的に捉えようとした点についてオリジナリティがある。今後更に検討を重ね仮説検証を継続することにより信頼できる結果を得られる可能性が認められる。